



羅針盤

2013年度 第14号
都立豊多摩高等学校
進路図書部
2013.12.11



進路室が2階に引っ越して
いかがでしょうか？

3年生の利用が増えたようですが、
1, 2年生も遠慮なくのぞいてみて
ください。

3年生の赤本貸し出しも多くなっ
てきましたが、すでにお知らせの通
り利用手続きを若干変更しました。
再度確認してください。

1. 借りるとき

貸出票を記入したら、進路室の先生
に、借りたい本と貸出票を見せて、必
ずチェックを受けてください。先生に貸
出票を提出します。

2. 返却するとき

進路室の先生に、クラスと名前を言っ
て、本を返してください。先生が貸出
票を出して、チェックをします。延長し
たいときは、申し出てください。

貸し出しについてのルールを確認し
ておきます。貸し出しは1回2冊まで、
貸し出し期間は2泊3日です。1度だ
け延長することができます。

マナーが悪い人は貸し出し停止にします。

ほとんどの人はきれいに使ってくれているようですが、時おり中にたくさんの書き込みがあったり、ページが折られていたりするのを見ると、とても残念な気がします。

皆さんが気持ちよく使えるよう、マナーを守りましょう。



私は先日インフルエンザ予防接種をしてきました。予約不要で、¥2,500でした。予防接種については賛否両論ありますが、少なくとも今までしていた人は予定しても良いかと思えます。打ったことの無い人は、保護者の方と相談してみてください。予防接種で感染を防ぐことは出来ませんが、発症しにくくしたり、発症したときの症状を緩和させる効果はあるようです。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した2週間から5カ月程度と考えられています。インフルエンザは例年12月~3月頃に流行しますから、12月中旬までにワクチン接種を受けることが望ましいと考えられます。



進路室 図書貸出票

(1回2冊まで 貸出期間 2泊3日)

このカードを記入し、貸し出しシートにはさむ。
返却時は進路室の先生に申し出て、返却確認後に
棚へ戻す。貸出の延長は1回までです。借りている本
をすべて返却してから次の本が借りられます。

年 組 番 氏名
例) 2013 早稲田 文 赤本
① _____
② _____
貸出日 2013年 月 日 ()
返却日 2013年 月 日 ()
返却確認 2013年 月 日 先生のサイン

次の人のために丁寧に使い、期限を守りましょう。



3年生の皆さんは、いよいよ出願の時期が迫ってきました。寒さのせいだけでなく身の引き締まる思いがしてくる頃かと思います。

担任の先生や保護者の方とも相談が進んでいることと思いますが、「出願」「併願」について参考となることをいくつか書いてみます。



1. 私大出願の注意点

(1) 併願校の絞り込み

「挑戦校」「実力相応校」「安全校」をバランス良く受験するのが理想。特に標準はないが、この三つについてそれぞれ2～4校程度リストアップしてから、絞り込んでいくのが良いのでは。

ぜひとも挑戦したい大学については、第一志望の学部以外にも、その学部と比較的近い内容の講義が受けられる学部も検討してみるべき。

また、安全校と言っても実際に進学する可能性はあるので、難易度ばかりで選ぶのではなく、「自分が通う大学」として真剣に選ぶ姿勢が必要である。

(2) 受験日程の計画

大学によっては、受験生の便宜を図るための様々な方策が用意されているので、受験要項をていねいに確認すること。複数受験日から選択できる制度や、同一大学の複数学部受験には受験料を割り引く制度など、便利に感じられるものも多い。

日程的には、2連戦は仕方ないが、3連戦以上はできるだけ避けたいところだ。

試験日程を慎重に調べて、第一志望校にベストコンディションで臨めるように計画しよう。

併願の日程を検討していく際には、試験日だけでなく、入学手続き締切日もよく確認して、できるだけ無駄な出費を避けるように計画したい。入学手続き後でも、入学辞退をした場合には納付金のうちかなりの部分が返還されるのが普通なので、そうした部分もよく要項で確認すること。

(3) センター利用の考え方

合格最低点は相当高くても、「挑戦校」や「実力相応校」の合格可能性を増やしておくという考え方もあるし、「安全校」を個別試験なしで確保しておくという考え方もある。いずれにせよ、出願締め切りがセンター受験よりも前に設定されているケースがあるので、可能性を広げて考えておくことが必要。

2. 国公立大出願の注意点

(1) 2パターンの受験日程の設定

センター試験の得点が予想と大きく離れて 上回った／下回った 場合の対応を考えておくこと。

(2) 私大センター利用受験での「安全校」確保

あくまで国公立志望でも、早い時点で合格校を確保しておくことで予想外に落ち着いて本命の受験ができるという効果が期待できる。センター利用だけであれば、個別入試の対応も必要ないので、一応検討してみよう。

(3) 後期に向けても真剣に取り組む。

出願時点で第一志望校と同様に慎重に検討する。前期と比べての科目数の減少や変化などに注意（小論文など）。前期が終わってから準備を始めるのではなく、始めから3月までの勉強計画を作る。「なかなか受験が終わらない」ではなく、「半月余計に準備できる」と前向きに取り組む。私大合格者の動きに惑わされないこと。

以上